# 家　　庭

## 1　学習指導及び学習評価の改善・充実

### (1) 家庭科における個別最適な学び、協働的な学び

急速な社会の変化の中にあって、これからの学校には、生徒一人一人が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるよう育むことが求められる。

未来の社会を見据え、生徒の資質・能力を育成するに当たっては、学習指導要領の趣旨を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」という観点から学習活動の充実の方向性を改めて捉え直し、これまで培われてきた工夫とともに、ICTの新たな可能性を指導に生かすことで、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげていくことが重要である。

そのためには、授業の中で「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、更に、その成果を「個別最適な学び」に還元するなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実していくことが大切である。

例えば、家庭科における消費生活を扱う場面においては、次のような指導を組み合わせることによって、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることが考えられる。

**・成年として自立した消費者になることを自分事として意識させるため、具体的な事例を提示し、将来の人生設計と結び付けて行うグループワークの機会を設定する。**
**・他の生徒の意見から新たに発見したり気付いたりしたことなどを、グループワーク時にメモとして自由に記述させる。**

障がいのある生徒などへの対応については、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うことが重要である。その際、共通教科としての家庭科の目標や内容の趣旨、学習活動のねらいを踏まえ、学習内容の変更や学習活動の代替を安易に行うことがないよう留意するとともに、生徒の学習負担や心理面にも配慮する必要がある。例えば、家庭科における配慮としては、調理や被服製作などの完成までの過程を、順番が分かるように写真やイラスト、実物や標本などを用いて具体的に示すなどの工夫が考えられる。作業を行う際には、具体的な指示を一つずつ出すなど分かりやすい指示を心がけるとともに、適切な時間を設定するなど作業に集中できるよう工夫することが大切である。作業を安全かつ円滑に進めるために、実習室等の学習環境の整備については、例えば、ゴミ箱を色分けするなど、視覚的な工夫をすることも考えられる。

### (2) 家庭科における共通性の確保を目指した学び

各学校が、生徒一人一人の特性等に応じた多様な可能性を伸ばす「多様性への対応」の観点と、全ての生徒が社会で生きていくために必要となる力を共通して身に付ける「共

通性の確保」の観点を軸としつつ、育成を目指す資質・能力を明確にし、それらを教育課程を通じて育むことが重要である。全ての高等学校においては、多様な生徒の状況等を踏まえて、共通して取り組むべき特に重要な点としては、以下のことが挙げられる。

**・自己を理解し、自己決定・自己調整ができる力の育成**
**・自ら問いを立て、多様な他者と協働しつつ、その問に対する自分なりの答えを導き出し、行動することのできる力の育成**
**・自己の在り方生き方を考え、当事者として社会に主体的に参画する力の育成**

家庭科においては、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、知識を相互に関連付けて、より深く理解させるとともに、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして解決策を構想し、実践を評価・改善することが求められている。そのため、家庭生活や地域の生活への関心を高め、生涯を見通して生活を創造する主体としての視点が重要であることを踏まえ、生徒が生活の現状を見つめ、なぜそうするのか、どうしたらよいかという課題意識をもち、家庭や地域の生活を主体的に創造することができるよう授業を進めることが大切である。例えば、生徒の学習前と学習後の考えの変容を見取ることができるワークシートの工夫や、他者の意見から自らの考えを導き出す場面を設定し、それに対する必要な手立てを教師が行うことにより、生徒が身に付けるべき力を着実に育成することが可能となる。

### (3) 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるための学習評価

家庭科においては、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、粘り強さ（知識及び技術を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面）、自らの学習の調整（粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面）に加え、実践しようとする態度（地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする側面）を見取ることが重要となる。

例えば、消費生活の学習として、生活情報を活用し様々な人々と協働しながら、よりよい社会の構築に向けて、適切な意思決定に基づき自立した消費者として行動することについて生徒に考えさせる際には、消費者被害の具体的事例を取り上げることで、生徒に事例を自分事として捉えさせる工夫が考えられる。取り上げた事例の問題点や解決策及び具体的な対応策を、グループワークを通じて考察させることで、自立した消費者として、自分や家庭、地域の生活の充実向上に向けて実践しようとしているかどうかについて評価することなどが考えられる。

教師は、生徒の学習状況を見取り、生徒の成長を認め励ますとともに、必要に応じて指導や支援を行うことはもちろん、生徒の学習状況を記録に残し評価のための資料とすることが重要である。

## ２　指導と評価の計画例

「家庭基礎」において、単元全体を通して「個別最適な学び」と「協働的な学び」という視点から授業を構成し、他教科との教科等横断的な授業を行うことが重要である。その単元の内容について、着実に資質・能力を身に付けさせるよう工夫した授業の実践例を以

下に示す。

**(1) 家庭基礎「青年期の自立と家族・家庭」の実践例**

ア　単元の目標

(ｱ) 生涯発達の視点で青年期の課題を理解するとともに、自己理解、自立、職業選択などの見通しやその準備、生涯を見通した中で、青年期をどう生きるか理解を深めることができる。

(ｲ) よりよい生活を創造するため、様々な生活課題に対し、適切な自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することの重要性について考察することができる。

(ｳ) 青年期の発達課題から自己の課題発見や振り返りを通して、自らの家庭生活の充実向上を図るために実践しようとする。

イ　単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| 生涯発達の視点で青年期の課題を理解するとともに、自己理解、自立、職業選択などの見通しやその準備、生涯を見通した中で青年期をどう生きるかについて理解を深めている。 | よりよい生活を創造するために、様々な生活課題に対して自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することの重要性について考察できている。 | 青年期の発達課題から、自己の課題発見や授業の振り返りを通し、自分や家庭生活の充実向上のために実践しようとしている。 |

ウ　単元の指導と評価の計画（３時間）

| 時間（次） | ねらい、学習活動等（学習活動の概要、主な発問、指導上の留意点） | 評価の観点 知 | 思 | 態 |
|---|---|---|---|---|
| １時間（１次） | 青年期の主な発達課題に理解を深めるとともに、エゴグラムや性格タイプ診断等による自己分析を通して、自身のよさや特徴についてまとめ、他者との共通点や違いなどを発見する。 | ○ | | |
| １時間（２次） | 「総合的な探究の時間」での名刺づくりに向け、自己分析から見つけた自分のよさや特徴の具体化を行う。<br>また、名刺づくりに向けグラフィックデザインツールの使い方について、理解する。<br>名刺は、「家庭基礎」の提出課題とする。 | | ○ | ○ |
| １時間（３次） | 自立と共生について理解を深め、自身の課題を整理するとともに、課題の解決策を考える。また、グループワークを通して、自己を理解するためには、様々な考え方や表現方法があることについて気付き、様々な価値観や、個性を尊重すること等について考察する。 | | ○ | ○ |

★発表の際は、口頭又はワークシートを見せての発表のどちらかで行うよう指示する。

★グラフィックツールを活用し、タブレットで名刺作成を行う。

エ　学習指導案（２時間目／３時間中）

**１　本時の目標**

(1)　自己分析を通して発見した自分のよさや特徴をもとに、よりよい名刺のイメージについて考察する。

(2)　自分のよさや特徴のイメージを膨らませ、色や図形で表現しようとする。

**２　本時の展開**

<table>
<tr><th>過程</th><th>学習内容</th><th>生徒の学習活動</th><th>評価規準</th><th>指導上の留意点</th></tr>
<tr><td>導入</td><td>・前時の振り返り、本時の学習内容の確認。<br>・総合的な探究の時間の活動予告。</td><td>・学習内容及びねらいの確認する。<br>・総合的な探究の時間との関わりについて確認する。</td><td>★ICT端末活用<br>Googleクラスルームにて、ワークシートの配信等を行う。</td><td>・ワークシートへの入力作業が、スムーズに進められるように声かけを行う。</td></tr>
<tr><td colspan="5">★多様性への対応<br>ワークシートのフォントはUDデジタル教科書体を使用する。<br>板書は色弱生徒の対応として白又は黄色のみ使用する。<br>生徒がお互い助け合いができるよう、円の形に席を移動する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">展開</td><td>・自分のよさについてイメージする。<br> </td><td>・自己分析から発見した自分のよさについて、自分なりにイメージを膨らませ、そのイメージをワークシートに記入する。<br>・他のクラスメートと見せ合い共通点や違いなどを発見する。</td><td>【思考・判断・表現】<br>・自己分析で発見した自分のよさからイメージを膨らませ、自分を表現した名刺を考えることができている。<br>・他者との比較から、多様な考え方や表現方法に気付くことができる。</td><td>・正解も不正解もないことから、自由に考えるよう声がけを行う。<br>・発表する際には、口頭又はワークシートを見せる形の発表を行うよう伝える。<br>・Googleクラスルームの活用<br>※カ(ｲ)参照</td></tr>
<tr><td>・グラフィックデザインツールの使い方の確認。<br>・名刺のイメージを確認。<br> </td><td>・グラフィックデザインツールの使い方の確認する。<br>・グラフィックツールにある素材を確認し、どのような名刺が作れるかさらにイメージを膨らませる。</td><td>【主体的に学習に取り組む態度】<br>・グラフィックデザインツールを活用し、自分のよさや特徴のイメージを膨らませて、色や図などで表現しようとしている。</td><td>・プロジェクターを使って画面共有しながら、生徒と一緒に使い方を確認する。</td></tr>
<tr><td colspan="5">「努力を要する状況（C）」と判断される生徒への手立て<br>教員が作成した見本や他生徒のワークシートを共有し、自分自身について考え、具体的に表現できるよう指導する。<br><br>★個別最適な学びに応じた授業の工夫<br>活動の説明を細分化して行う。生徒同士の教え合いを行っても躓く生徒に対しては、教員が個別に対応する。<br><br>★ICT端末活用<br>グラフィックデザインツールを用いて、生徒が考えたことについて、自由に表現</td></tr>
<tr><td>まとめ</td><td>・本時のまとめ。<br>・次時の学習内容の確認。</td><td>・本時の活動で気付いたことや考えたことについてワークシートに記入する。</td><td></td><td></td></tr>
</table>

オ　学習の進め方や学習評価の工夫

(ｱ) 教科等横断的な視点について

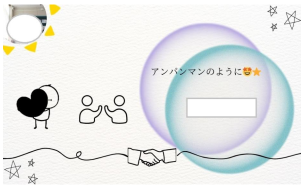
単元「青年期の課題と自立と家族・家庭及び社会」において、エの学習指導案に示したとおり、「総合的な探究の時間」と関連させて、多方面から生徒に授業内容を振り返るよう工夫をしている。意思決定に必要な自己理解を他教科と連携して進めることで、継続して「自分」について考えることが期待できる。授業の中では、「優しい」、「素直」などの抽象的な表現に対して、具体的な色などに変換することで、具体的な表現を組み込んだオリジナルの名刺づくりを通して、自己理解及び他者理解を深める授業展開を心がけた。また、自己表現においては自由な作品作りができるような声がけ、生徒同士の意見交流など、安心して取り組めるような環境づくりも心がけた。

なお、作成した名刺は、総合的な探究の時間で実施する地域の特別支援学校との交流の際にも使用した。

(ｲ) 総合的な探究の授業との関連

| 過程 | 学習内容 | 生徒の学習活動 | 評価規準 | 指導上の留意点 |
|---|---|---|---|---|
| 導入 | ・本時の学習内容の確認。<br>・家庭基礎の内容の振り返り。 | ・学習内容及びねらいを確認する。<br>・家庭基礎との関わりについて確認する。 | 「総合的な探究の時間」の導入である、「自分探究」の学習を振り返ることを意識し、教科横断的に学習を進めることができるよう留意する。 | |
| 展開 | ・グラフィックデザインツールを使った名刺作成。 | ・グラフィックツールを活用し、自分を表現した名刺を作成する。<br>・自己紹介の原稿を作成する。 | **【思考・判断・表現】**<br>・自分を表現した名刺を作成し、自分の特徴や考えなどを伝えることができる。 | ・グラフィックツールにあるテンプレートを参考にするよう伝える。 |
| まとめ | ・名刺を使い自己紹介を行う。<br>・活動の振り返りをまとめる。 | ・相手に名刺を見せ、自己紹介を行う。<br>・振り返りについてワークシートに記入する。 | **【主体的に学習に取り組む態度】**<br>・自己理解と他者理解を深め、円滑な人間関係を形成しようとしている。 | ・発表の際には、自らの考えを相手に伝えやすい形で、口頭又はワークシートを共有して発表するよう伝える。 |

〔参考〕総合的な探究の時間で作成した成果物、振り返り等

| 成果物（名刺） | 自己分析と図柄の関連 | 振り返り |
|---|---|---|
|  | ・リーダー→「星」<br>・元気、明るい→「黄色」「丸い形」「太陽」<br>・優しい→「ピンク」<br>・誰とでも仲良くできる→「オレンジ」「握手」 | ・上手くイラストを使って誰にでも伝わるようなものを作れた。自分を表現できたと思う。<br>・みんな個性が出ていて、人によって特徴や好みが違うことが分かった。 |
| | ・人に頼られる→「グッドサイン」<br>・管理するのが上手い→「整頓」「白」<br>・正直→「青空」 | ・自分の傾向、特徴から色や形などのイメージを考えるのが難しかった。<br>・いろいろな名刺ができていて楽しかった。人それぞれ違っていて、クラスメートはこういうのが好きなんだって思った。 |

(ｳ) ２時間目に実施した授業におけるICTを活用した評価

Googleクラスルームを活用し、ワークシートと本単元のルーブリック評価を配信し、生徒が授業ごとの評価規準を事前に知ることができるようにしている。ワークシートを返却する際には、本時の評価が生徒の手元に残るため、授業前後の場面で生徒自身が取組の調整を行うことができる。

＜評価の例（思考・判断・表現）＞

★評価を行う際のポイント
波線→目標の達成状況 、 二重線→深い学びにつながる活動とする。

**【評価Ａ】**
自己分析から自己と他者の共通点や他者との違いを受け入れることの大切さについて考察した名刺を作成できている。

**【評価Ｂ】**
自己分析から自己と他者の共通点や違いについて考察した名刺を作成している。

**【評価Ｃ】**
自己分析による自己と他者の共通点や違いなどについての考察が不十分である。

「評価Ｃ」と判断される生徒への手立ての例
自己分析においては、自身だけでなく他者へも目を向けるよう促し、比較する中で自身のよさや課題について、生徒自身が気付くことができるよう、働きかける。

(ｴ) 個別最適な学びの工夫

単元全体を通して全体指導の場面においては、以下に示す工夫を行うことで、生徒に身に付けさせたいと考える力が着実に育成されるようにした。

| 指導における留意点 | 生徒に提示した発表の際のルール |
|---|---|
| ①生徒同士の教え合いが発生する雰囲気づくり<br>②全体指導の場面において、説明を細分化<br>③グループワークの活動時間を提示<br>④視覚的に生徒に示す工夫 | ①他人の話を聴く時には、相手を見て静かに最後まで聴くこと<br>②話を否定したり、批判したり、からかったりしないこと<br>③自分の聞きたいことをはっきりと具体的に伝えること<br>④自分の意見をしっかり伝えること |

授業のオリエンテーションの段階において、グループワーク等で生徒同士が協働しながら活動する機会を提供することで、生徒同士が助け合いながら学ぶ環境づくりを行い、会話しやすい雰囲気づくりを心がける。

障がいや特性等がある生徒に対しては、授業の始めには相手への聞き方・伝え方や聞き取り方などについて具体的に伝えるなど、コミュニケーションの図り方について直接指導する等の手立てを行うことや、文章や言葉だけではなく、画像や画面共有等をICT端末を活用して視覚的に示す方法を取り入れることなどで、生徒の理解度を高めることができる。

## Topic 「関係機関と連携した消費者教育の実践事例」

◆　消費者教育・金融教育での外部人材の活用について

教科「家庭基礎」の学習では、「Ａ　人の一生と家族・家庭及び福祉」の内容において生涯の生活設計について学習した後、「Ｂ　衣食住の生活の自立と設計」において健康・快適・安全な衣食住の生活を主体的に営むための方法について学習を進める。

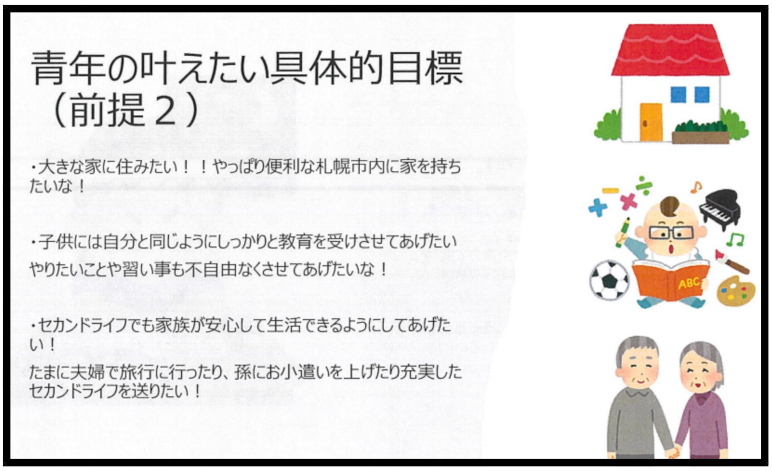
さらに、「Ｃ　持続可能な消費生活・環境」において消費者教育について学習をした後に学習する。本事例は、科目のまとめとして、今までの学習内容を振り返るとともに、金融教育について専門的知識のある生命保険会社から外部講師を招へいすることで、生徒に生涯を見通した生活を設計する力を、更に身に付けさせることを目的とした授業実践例である。

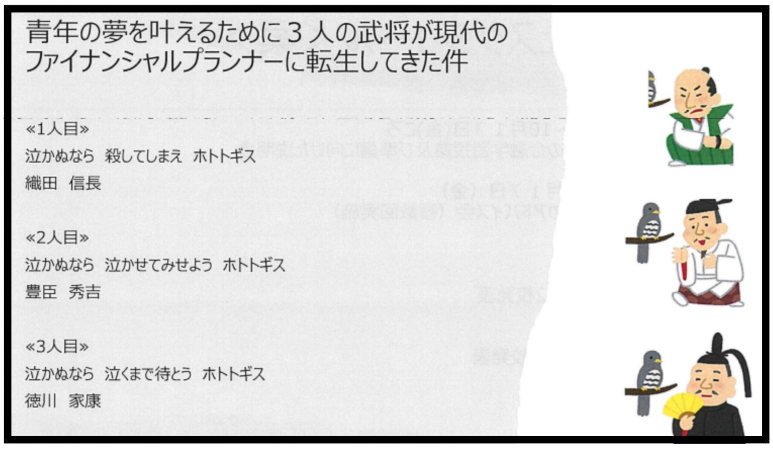
**将来の自分を想像できるよう、人物の具体例を提示し、学習内容を自分事とする**

生徒の
主体的な学び

**家庭科の最初の授業で計画を立てた自分の人生設計について振り返り、グループワークを通じて考察する**

生徒の
対話的な学び




**人生で起こりうるリスクを想定し、生活における家計管理の重要性について理解を深める**

生徒の
深い学び